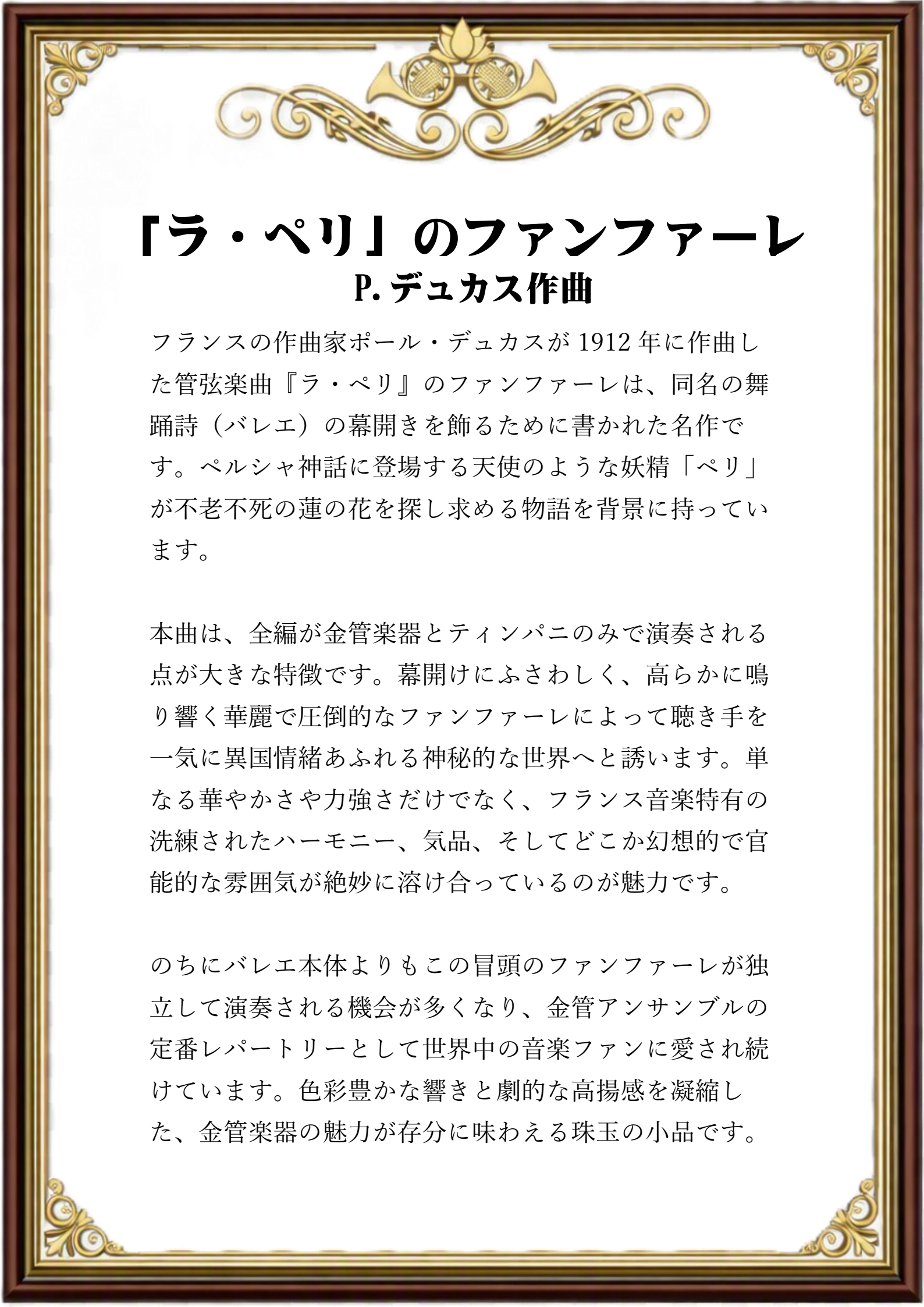




「ラ・ペリ」のファンファーレ

P. デュカス作曲

フランスの作曲家ポール・デュカスが1912年に作曲した管弦楽曲『ラ・ペリ』のファンファーレは、同名の舞踊詩（バレエ）の幕開きを飾るために書かれた名作です。ペルシャ神話に登場する天使のような妖精「ペリ」が不老不死の蓮の花を探し求める物語を背景に持っています。

本曲は、全編が金管楽器とティンパニのみで演奏される点が大きな特徴です。幕開けにふさわしく、高らかに鳴り響く華麗で圧倒的なファンファーレによって聴き手を一気に異国情緒あふれる神秘的な世界へと誘います。単なる華やかさや力強さだけでなく、フランス音楽特有の洗練されたハーモニー、気品、そしてどこか幻想的で官能的な雰囲気絶妙に溶け合っているのが魅力です。

のちにバレエ本体よりもこの冒頭のファンファーレが独立して演奏される機会が多くなり、金管アンサンブルの定番レパートリーとして世界中の音楽ファンに愛され続けています。色彩豊かな響きと劇的な高揚感を凝縮した、金管楽器の魅力が存分に味わえる珠玉の小品です。